

まえがき

つくば市は、今年で筑波研究学園都市が閣議了解されて 50 年以上の歳月が経過し、市制 35 年目を迎え、人口は令和 4 年 7 月で 25 万人を超えるまでになりました。日本のみならず、世界の国々でも先端的な科学技術の開発拠点都市として知られ、筑波大学、筑波技術大学を始め宇宙航空や産業技術などの 30 を超える国等の研究教育機関、100 余の民間研究機関が立地し、国内でも最大規模の研究開発地域となっています。また令和 4 年 3 月には、国家戦略特別区域諮問会議において、つくば市をスーパーサイエンスシティとして指定することが決定しました。

このような「科学の街つくば」として現代の科学技術発展に大きく貢献している本市には、科学を身近に感じ、学び、体験できる多くの「場」「機会」があります。また、市内において現在 2 万人を超える研究者を有する点で「人」の存在も忘れてはなりません。この科学に囲まれた地域であることは、私たちにとって大変幸せなことであります。

本市では、2020 年 3 月に「つくば市教育大綱」を策定しました。この中で、「一人ひとりが幸せな人生を送ること」をつくばが目指す教育の最上位の目標に掲げ、日々の教育活動を進めています。先の見えない変化の激しいこの時代だからこそ、子供が幸せを実感できるようにする学校づくりを実現させるとともに子供たち自身が改めて一人ひとりの幸せとは何かを追究し、みんなが幸せな社会を創造していく姿を目指しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症と向き合い、ウィズコロナの時代として感染症防止を行いながら科学事業をすすめています。市サイエンスキッズリーグ 2022 については感染拡大防止のために、残念でありましたが中止といたしましたが、つくば市科学研究作品展においては、2 年ぶりに観客を入れ市民ホールつくばねにて展示公開を行うことができました。本年度も科学を探究する多くの子供たちからの作品応募があり、それらの研究は県南地区や県においても高く評価されています。このような子供たちの学びの姿は、つくば市教育大綱の理念をまさに体現しているものと思います。

今後も、これらの取組をさらに広げ、科学に感動したり、進んで科学に親しんだりする科学好きな子供たちを育てていきたいと思えます。

本書は、令和 4 年度につくば市科学研究作品展に応募された多数の研究作品の中から、優秀な作品を収録した研究事例集です。今後も、本書に収録された研究事例を参考に、より創造的で個性的な科学研究に取り組む児童生徒が増えることを期待しています。

終わりに、本誌刊行にあたり、御尽力賜りました関係者各位に心から感謝申し上げます。

令和 5 年 2 月

つくば市教育委員会教育長 森田 充